ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

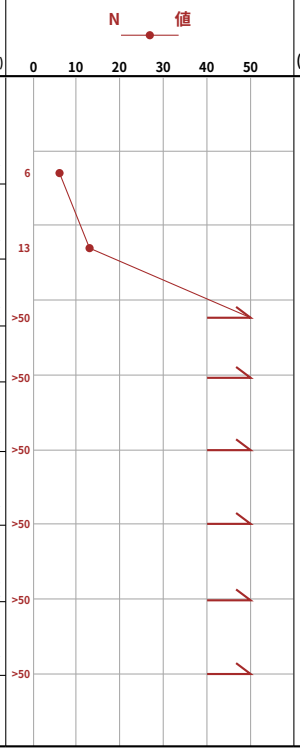
シートNO.

ボーリング名	No.33B-3	調査位置		北　緯	36 ° 42 ' 11.0000 "
発注機関	栃木県烏山土木事務所　整備部	調査期間	2010-03-17 ～ 2010-03-17	東　経	140 ° 10 ' 18.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	123.99 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 30.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	8.03 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	121.59	2.40	2.40		礫混じり粘土 (CH-G)	褐～黄褐		中位	上部0.20mは腐植土である 含水量，粘性ともに中位である 1.5mまでφ5～50mmの角礫混入 1.70m以深，黄褐色を呈し凝灰物を混入		03/18 2.50
2	119.89	1.70	4.10		粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐	非常に密な		φ5～50mmの角礫(砂岩)が主体 礫間はシルト混じりの細砂で充填され,密実に堆積している 地層に明瞭な乱れがないことから砂岩の強風化部である可能性が高い		
3	117.89	2.00	6.10		風化砂岩 (Ss)	暗灰			風化しているが変質していない 割れ目が多い部分と少ない部分が断続的にみられる 礫状～岩片状コアが主体で,割れ目の少ない部分は10cm程度の柱状コアを呈す 5.6～5.75m間は頁岩が優勢で細礫状を呈す		
4	117.69	0.20	6.30		風化頁岩 (Sh)	暗灰			細粒の割れ目が発達し細礫状コアを呈す		
5	115.96	1.73	8.03		砂岩 (Ss)	暗灰			岩質やや新鮮であるが割れ目は多い 割れ目は断続的に多くみられ割れ目の少ない部分は5～30mmの柱状コアを呈す 所々，頁岩が優勢な部分を10cm内外の層厚で薄く挟む		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	2	6／30	6
1.45					
2.15	2	4	7	13／30	13
2.45					
3.15	10	40		50／20	>50
3.35					
4.00	50			50／10	>50
4.10					
5.00	50／3			50／3	>50
5.03					
6.00	50／2			50／2	>50
6.02					
7.00	50／4			50／4	>50
7.04					
8.00	50／3			50／3	>50
8.03					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
		1.15 1.45	33B-3	㊀		03/17 03/18